

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和5年5月25日(木) 午後2時

閉 会 年 月 日

令和5年5月25日(木) 午後2時32分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務
代 理 者 重 田 誠

委 員 神 宮 嘉 一

委 員 田 野 内 明 美

事 務 局 (説明員)

教育部長 青 柳 正 典

公民館担当部長 川 嶋 昭 人

学校教育担当部長 大 澤 好 則

教育総務課長 小 池 郁 生

社会教育課長 茂 原 久 美 子

文化財保護課長 角 田 眞 也

中央公民館長 山 口 順 子

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 依 田 哲 夫

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 清 水 さとみ

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

5月25日	会議に附した事件
議案第7号	令和5年度高崎市一般会計補正予算（6月議会提出分）教育費見積書の提出について

高崎市教育委員会 5 月定例会会議録

教育長（飯野眞幸）

これより、高崎市教育委員会 5 月定例会を開会いたします。

この際、諸般の報告を申し上げます。塩野委員から本定例会を欠席する旨の届け出がございました。以上で諸般の報告を終わります。

それでは、議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第 1 会期の決定といたしまして、会期は、本日 1 日といたします。

日程第 2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、重田教育長職務代理者と神宮委員を指名させていただきます。よろしくお願いたします。

日程第 3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

「なし」とのお声をいただきましたので、会議録はご異議なしと認め、原案のとおり承認させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

それでは、本日の議事に入ります。

議案第 7 号「令和 5 年度高崎市一般会計補正予算（6 月議会提出分）教育費見積書の提出について」を議題といたします。提案理由の説明をお願いします。

（小池 教育総務課長 から秘密会の申し入れ）

教育長（飯野眞幸）

ただいま事務局より秘密会の申し入れがございましたので、議案第 7 号の審議を秘密会とすることでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議ないようですので、秘密会といたします。

（秘密会）

教育長（飯野眞幸）

それでは、秘密会による審議を終了いたします。

教育長（飯野眞幸）

以上で、予定していた議事の審査は終了いたしました。事務局から、その他の報告等はございますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

次に、委員の皆様から、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

委員（神宮嘉一）

今週と先週の2週間にわたりまして、やるベンチャーの子どもたちが私の会社に来ていました。高校生の受け入れを行うこともあります。正直なところ、高校生と比べても、挨拶や受け答え、来るにあたっての意義・目的などをしっかりと考えているようでした。今年に限らずですが、やるベンチャーの子どもたちは非常にしっかりしているなと思いました。去年までは気が付かなかったのですが、タブレットを持ってきておりました。学校からは特別に言われていないと言っていましたが、おそらく写真に撮って記録を残したり、メモ書きに使ったりなど、子どもたちは自然にできているのだなと感心しました。破損や盗難には気を付けて有用に使ってくださればと思います。また、マスクの着用について、状況が許せるようであれば、極力マスクをしないように最近心掛けています。周りを見渡している中で、やはり学校生活や行事について、去年までとはフェーズが変わってきているように感じます。教育委員会や我々などは、どうしても安定思考になりがちなところがあります。安全第一で当然ですが、これから本格的にウィズコロナというフェーズに入ってきていると思います。コロナ禍で、現場を見たり、訪れたりという機会があまりない状況でしたので、給食や部活動の様子、タブレットを使った授業・活動の状況などを見る機会があるとより我々の理解も深まります。学校側も周りの人に見てもらふことで、良い機会が生まれるのではないかと感じております。最後に、本日は欠席なのですが、塩野委員がいじめ防止担当教諭研修会で講師をされた記事が今日の新聞に載っていました。その辺の様子をお聞かせいただきたいなと思います。

学校教育課長（依田哲夫）

塩野委員には、いじめ防止担当教諭研修会の中で、いじめ防止対策推進法について話をさせていただきました。大きく話をしてもらったのは、「学校の責務」についてです。「学校は、いじめがあった場合には速やかにそれを解決するようにしていくこと。被害にあっている子どもを守る。また、保護者の責務として、トラブルを起こさない、いじめを起こさないように協力をしていく。」そういった法律的な話をさせていただきました。現在学校で取り上げられているトラブルの事案、解決法として、最初に子どもから話を聞く時には、主観を入れずに事実をきちんと記録してくださいということでした。それを基に、もし大きな話になってしまった場合、事実を出していただくことが重要になってくるというお話もありました。どうしても思いの強い保護者と対応する場合には、納得してもらおうとか、説得しようとか思わないで、平行線のままでも構わないので、学校ができること、できないことを明確にし、そこに私達のような法的な者が入るなど、そういったことを複合して対応していく、そのために記録は大事です。という話もさせていただきました。また、文部科学省のいじめの事案集があるのですが、そこから1つの事案について協議をしていただきました。内容としては、小学校2年生でいじめが発生し、それを学校が放置し、3年生になった時に不登校になってしまい、いじめがあったことがもしかしたら忘れられてしまったかもしれない。4年生になったところで、またいじめが発生した。その時に「いじめ防止担当教諭としてどういう対応をしますか」という話の中で、やはり多く出てきたのは、初期対応、小さなことにも目を向けて、しっかり対応していくこと。もし、その段階で対応できていればここまで大きくならなかつ

たということ。そういう意見が沢山ありました。教員には転任もありますので、人が代わってもし分からないとしても、引継ぎがしっかりとできているか、2年生から3年生、3年生から4年生、また3年生で不登校になっていると、その期間が抜けている。その前の情報も引き継いでいくことが必要で、生徒指導上の記録・伝達をしっかりとしていく、そういった実状を話してくださる先生もいらっしゃいました。塩野委員からは、「法的な話ができ良かった。先生達の話の聞いたことによって、法的な仕事をしている者の役割を再認識しました。勉強になりました。」という感想をいただきました。以上、簡単ですがご報告させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

この研修会につきましては、いじめ防止対策推進法の中で、学校の責務、研修はやらなくてはならないということもありまして、学校だけでなく、教育委員会も研修主体、そういう位置づけの中で今回やっていただいております。

委員（神宮嘉一）

丁寧な説明ありがとうございました。塩野委員の活躍の様子が目に浮かびました。

教育長（飯野眞幸）

やるベンチャーの時にタブレットを持っていくというのは、学校教育課長何か方針があるのでしょうか。

学校教育課長（依田哲夫）

おそらく、子どもたちの出欠確認をタブレットでやっているのかなと思います。担任と子どもたちは伝達アプリがありますので、そこで行ったかどうか情報交換ができます。また、学校で緊急な連絡がある場合は、全員に周知ができる、そういうことももしかしたらあるのかもしれませんが。

教育長（飯野眞幸）

記録用の側面もあるのですか。

学校教育課長（依田哲夫）

やっているところを撮るなど、自分で書き込みもできますので、事前に作った資料に自分の感想などを直接書き込んだりする可能性もあります。

教育長（飯野眞幸）

やるベンチャーは、お褒めのお言葉をいただいたのかなと思うのですけれども。

学校教育課長（依田哲夫）

ありがとうございます。

委員（神宮嘉一）

本当に素晴らしかったです。参考になりました。

教育長（飯野眞幸）

やるベンチャーは、群馬県では県立学校からスタートしています。「ようこそ先輩」と言うものでした。これは、私が県教委に在籍しているときに作り上げた制度です。それが、県教委から市町村教委へ降ろして、そして群馬県全体の取組にさせていただいて、高崎市では「やるベンチャー」という名前で定着してきました。ただ、やはりコロナ禍は大変な面がありましたので、もうこれ以上引き受けられないとか、そういった中で続いてきました。現在は、また勢いを取り戻してきたのかなというふうに思っています。そういう背景で始まりました。

委員（神宮嘉一）

引き続き、よろしく願いいたします。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

委員（田野内明美）

ラジオ高崎でも、今週から2校8名のやるベンチャーの生徒を受け入れさせていただいています。5日のうち3日間受け入れさせていただいて、3日間の中でラジオ番組を作ろうという体験をしています。どういう番組が良いか企画から構成、それから選曲、原稿書き、1人持ち時間5分くらいの中で、どういうことができるか考えてもらっています。明日で終わりなので、今頃スタジオに入って子どもたちに喋ってもらって、曲紹介をするなどの体験をしてもらっているところです。事前の打ち合わせのときに、タブレットとスマホを持っている場合は持ってきてくださいと話をさせていただきました。自分がどういうことを話したいか、話したいものをもう少し補足で原稿書きしたい時は、検索をしてもらったりして、事前にそういう話をさせてもらっています。本当に元気に体験してもらっているのだから、こちらも嬉しく思っています。中には、履歴書を生徒が書いて出してくださるところもありまして、事前にどういう生徒なのか分かるのと、意気込みを感じます。本当にすごく良い企画だなと思っていて、スタッフも「大変勉強になる」と言っています。普段、なかなか子どもたちと話をすることがないので、分かりやすく話をすることが、勉強になっているという話をしていました。また、子どもたちは原稿書きをする時にタブレットで入力をするのですが、速度がすごく速く、使いこなしているのだなと感じました。ただ、スマホで音楽を聴いたり、ニュースを見たりしているそうですが、スマホだと検索したものに、興味のあるものだけ出てくる機能があります。そういった、興味のあるものしか出てこないという側面もあり、そういう情報に触れるという機会が、スマホだけになってしまうのは少し怖いというか、もう少し視野を広げたほうが良いと思います。それを狭めてしまうという側面もあるのかなと思ったので、スマホだけではなく、本とか新聞とか色々な情報メディアがあると思うので、そういうものを沢山目にして、正確な情報とか、フェイクニュースに騙されないとか、そういう情報への触れ方を少し広げてもらいたいなと思いました。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。良いお話を聞かせていただきました。

教育長職務代理人（重田誠）

医学的な調査によると、子どもたちのスマホの使用時間と、学業成績というのは、勉強している時間が同じであっても、スマホに触れている時間が長いと成績が落ちると言います。1つは、学業を修めるための集中力。もう1つは、ネットというのは広い社会に見えるのですが、ネットで検索して目に入って、1つの意見を見ていると、どんどんその意見に集中してすごく偏向してしまいます。それが非常に問題です。新聞とか本とか色々なものに触れてみるということも大切です。広く学校で学ぶ中の一歩としてのタブレットは良いのですが、それだけだと非常に偏ってしまいます。私の病院に来る子ども皆タブレットを持ってきます。そこで勉強をしている子がいたり、プログラミングをしている子がいたり、普通に使っている感じがします。うまく使うことと、偏向しないことが大事だと思います。

教育長（飯野眞幸）

貴重なご意見ありがとうございました。「やるベンチャー」につきましては、高崎市役所も受け入れておりますので、社会教育課長お願いします。

社会教育課長（茂原久美子）

社会教育課でも、今日まで中尾中学校の女子3人を受け入れております。各委員会の総会ですとか研修会が始まる時期ですので、資料の準備や、あとは総会の受付などを体験していただいています。とても明るく元気な声で出迎えていただけるので、来てくださる委員の皆さんは、入ってきた瞬間に今日は雰囲気明るいなと感じてくださって、会議もとても和やかなムードで進めることができます。子どもたちの力はすごいなと私達も感じているところです。また、毎回アンケートでは、「今まで、何気なく学校からもらっていたお便り、それがこんなに沢山の人の手や時間をかけて、私達のところに届けられて、それを私達が家へ持って帰っているのだということの大切さとか、大変さというのを改めて感じたので、これからは母親に渡す時にも丁寧に渡します。」と言ってくる子が沢山います。そういった面でも、良い経験になっているのかなと感じているところです。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。市役所でも歓迎ムードです。去年でしたか、子どもたちが私のところまで挨拶に来てくれました。私の机と椅子に座って大感激して、校長にまで報告したとか、そんな話がありました。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

教育長職務代理人（重田誠）

最近コロナの感染症が減少して、学校も修学旅行や林間学校に行けるようになって非常に良いことなのですが、この辺の変化の話を少ししておきます。感染症自体もすごく減っていてコロナも減っています。少し問題なのは、4月末、5月の連休前は検査をしてもほとんどコロナが出ませんでした。連休明けから少し増えてきました。東京都のモニタリング会議でも世界的なXBB株が増えてきています。XBB.1.5が有名で、

それ以外のXBB株もあるのですが、だいたい7割を超えてきています。XBB株は、感染力がものすごく強いわけではないですが、ワクチンを打った人も罹ってしまうので心配しています。もう1つは、医療費がかかるようになったことです。以前は、皆検査していたのですが、検査をしない人がいるので、見かけより数が減っています。また、週に1回定点報告、翌週に発表されたりしていて、1～2週間遅れて結果が分かってくるので、少し気を付けていないと増えてしまうかもしれません。今のところ、まだXBB株にしても、感染症が強くなるわけではないので、子どもはほとんど大丈夫です。少しその辺りの懸念があって、気を付けたほうが良いです。

教育長（飯野眞幸）

100パーセント安心ではないということですね。

教育長職務代理者（重田誠）

そうですね。手放しで大丈夫ではないです。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。ないようですので、以上をもちまして、教育委員会5月定例会を閉会させていただきます。

本日は大変ご苦勞様でした。